

平成 25 年度国立大雪青少年交流の家第 4 回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成 26 年 2 月 26 日（水）13:30～14:30

場所：国立大雪青少年交流の家第 3 研修室

運営委員出席者：大島部会長，山形委員，鈴木委員（浜田委員代理）目黒委員，浪岡委員
計 5 名

欠席者：永澤委員，坂東委員，植田委員

計 3 名

国立大雪青少年交流の家出席者：小堀次長，佐藤事業推進室長，佐々木企画指導専門職，伊藤企画指導専門職
小川事業推進専門職

計 5 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間・資料確認，出席委員紹介，欠席委員の報告

●部会長による議事の進行

<議 題> 1 平成 25 年度事業部会の取組について

●事務局

今年度，事業部会の取組として，「ゆーすフェスタ 2013」「大雪冬のレクスポーツ祭典（大雪キッズアドベンチャーランド）」の 2 つの事業を実施した。「ゆーすフェスタ 2013」は，前回の事業部会で，すでに事業反省を行い，各委員から意見をいただいた。「大雪冬のレクスポーツ祭典（大雪キッズアドベンチャーランド！冬編）」については，前回の事業部会で委員からいただいた意見から，美瑛町の全小学生に冬の遊びについてアンケート調査を行った結果をプログラムに反映させた。また，開催日前の 2 日間において美瑛町の幼稚園と保育園を招待し，当日は，委員の協力もいただき，来場者は 225 名だった。

○部会長

まずは，「ゆーすフェスタ 2013」について，前回の会議の追加意見があれば何う。

事業部会の中で，大雪らしさを柱にしたらよいという意見から，アンパンマンに頼らないで，様々なブースをつくった。新たなコンセプトで精力的によく取り組んだ。

□委員

どんころ野外学校所有のバスで大人も子供も含め約 20 名程度参加した。たくさんのプログラムがあり、とても充実したフェスであることはよいが、運営が大変ではなかったかとスタッフの苦勞を感じた。子供に視点を当てて企画したと思うが、幅の広い内容で大人も十分楽しめた。毎年来たいたいという印象をもった。周辺の市町村にもっと広報したらよい。

□委員

高齢者も参加していて世代を超えた交流が行われてよかった。合唱をした美瑛町すずらん大学の演奏会の方が「機会があったらまた出たい。」と言っていた。今は核家族化で、個人主義が進んでいる。体験をさせる、経験をさせる事業が必要である。効果的な宣伝をしてより多くの人に体験の機会を提供するとよい。

○部会長

ブース担当として参画していただいた方々が「またやりたい」という意識をもってもらえたことは、お互いにとってよい関係が築けたということになる。

●事務局

ピザの反響は大変よかったが、来場者を待たせる結果となった。親子連れが多く自分で作って食べる体験をととても喜んでくれた。どんころ野外学校スタッフとボランティアが運営者として携わってくれた。みんな充実感をもって来場者とかかわりをもつことができた。

□委員

これまでのアンパンマンショーに代わり、今回は体験重視をコンセプトとした。来場者の数が落ち込むと思っていたが、広報の工夫によって、過去最高の結果となりよかった。まずここに来てもらうには、ひきつける内容とその発信の方法が必要であると考え、それが「食」をテーマとしたブースの提供につながった。

○部会長

豚汁コーナーの会場が正面玄関であり、盛況となった。内容に広がりをもたせることができよかった。「食べる」ことは喜びになる。豚汁は義援金を募る形だったことから、料金設定をしていなかった。来場者から「料金を設定してほしい。」という意見があった。

□委員

初めて参加させていただいて、準備が大変だろうと思った。しかし大盛況で驚いた。「すべてのブースを回ることができなかった。」という声が聞かれたが、また来たいと思う気持ちにつながりよかったのではないかと思う。チラシに館内のブースについて、もっとPRしてもよいと思った。

○部会長

次は「大雪冬のレクスポーツ祭典（大雪キッズアドベンチャーランド！冬編）」について御意見を伺いたい。

●事務局

2つの事業を合わせて実施した。1泊2日のクロスカントリースキー教室と、日帰りの大雪キッズアドベンチャーランド！冬編。これはゆーすフェスタの冬版。美瑛町の小学生にアンケート調査を行い、その中で意見が多かった「雪遊び」「クラフト体験」をプログラムに反映させた。

運営協力として、委員、あおば幼稚園おやじの会に来ていただき、また、美瑛東小の先生にクイズを考えていただいた。結果として多くの方々に参画いただいた「新しい公共」型の事業運営を行うことができた。

○部会長

クロスカントリースキー事業はすぐ定員に達することから、2つの事業を別日程で開催すると、職員もより完全で充実したプログラム提供ができ、今回参加できなかった子供たちも集めることができるのではないかと。検討材料として提案したい。

□委員

もちつきブースは、次から次へと子供たちが来て午前中は忙しかったが、「おいしい、おいしい」と食べてくれてよかった。今の子供は、きな粉や砂糖醤油を見ても何か分からず、「これなんですか？」と聞いてきた。「食育」という観点からも、よい体験になったのではないかと思った。参加者にはとても好評だった。

○部会長

今の子供たちは、もち米ともちが結びついていない。非常に貴重な体験だったと思う。

もちつきや、もちを丸めるときに、来場したお父さんやお母さんも積極的に参加してくれた。下山プロジェクトの意図や効果が、町民に伝わってきたからだと思う。

冬の事業は寒さもあり、特に野外で展示するブースやアトラクションは厳しい。何かよいアイデアがあれば伺いたい。

□委員

冬の雪遊びをメインとするなら、かまくらを作ることも1つのアイデアである。クロスカントリースキーは、子供たちのためにも次年度も実施してもらいたい。

○部会長

スキーは、どのように調達したのか。

●事務局

大雪の所有しているスキーで対応した。

□委員

大雪キッズアドベンチャーランドにおける対応可能人数はどれくらいか。美瑛町で例年実施しているスキー場で遊ぶ事業は 200 名が対応可能な人数である。

●事務局

大きな滑り台もあるので、200 名以上は対応可能である。

○部会長

外で甘酒を振舞うのもいいかもしれない。温かい飲み物の提供など、ちょっとした工夫が、よい結果をもたらすのではないか。

□委員

かまくらの中で、もちを食べたり、甘酒を飲んだり、豚汁を食べたりするのも寒さを活用した楽しさになるのではないか。

体を動かすことと、競技性を兼ねたブースがあつたらよいのではないか？

●事務局

子供の意見にも、「冬の運動会をやりたい」という記述があつた。

○部会長

このような意見を参考にしながら次年度企画していくと、さらにより結果につながるだろう。

<議 題> 2 平成 25 年度業務実績の報告（自己点検・評価表）について

●事務局

この議題については、全体会議で説明する時間を取ります。この場では、御意見のみ伺います。

○部会長

旭川市の社会教育委員の役職にも就いているが、そこでの自己点検評価方法は、事業ごとの反省を委員会に諮り、委員から意見をもらうという方法である。資料だけではなく、説明していただいたり、質問させていただく時間をつくってもよいのではないか。ただ、それぞれのやり方があるので、あくまでも事例として紹介する。

□委員

交流の家は、美瑛町の行事に必ず参加し、運営に関わっていただいている。「S」評価がもっと多くてよいのではないか。

<議 題> 3 平成 26 年度運営計画（案）について

●事務局

「新しい公共」の試行をもう 1 年延長することが決定された。その背景は、「現在試行している施設の成果等についての質問が多数寄せられた」「現在試行を行っている施設の取組の成果を示す必要がある」「更に具体的な成果が上がるよう求められている」以上 3 点。

事業部会については、平成 26 年度の会議開催数計画として、全体会 2 回、部会 2 回を行う予定。また、必要に応じて書面会議も行いたい。「ゆーすフェスタ 2014」「冬の祭典」は、来年度も継続し、協働しながら取り組んでいくテーマとなる。また、ユースオブワールド等教育事業にも、企画運営委員として参画していただきたい。

○部会長

試行 2 年次目であることから、より支え合いと活気ある施設運営に向けて、教育事業への参画かつ新たな取組になるということが大切である。今年度の成果を生かし、来年度も協働で取り組んでいくことが、私たちの役割である。

以上で、事業部会を終了する。

会議終了

閉会挨拶

閉会宣言